

第 161 回中材業務及び感染対策研究会を、2025 年 5 月 31 日（土）に開催しました

今回から、これまで開催していたドーンセンターから、大阪 YMCA 国際文化センターに会場をかえました。ここ近年の参加人数に合わせた収容会場に変更になり少しコンパクトになったぶん、参加者との距離も近くなり、より熱気を感じる開催となりました。展示会場も本会場の一角となり、いつも展示していただいている各業者の方にも、講演を見ていただくことも増えたのではないかと考えております。そして、今年度から研究会の会長も交代となり萱島会長から、平松会長が就任されました。冒頭、新会長からの挨拶で開幕しました。



この研究会は、中材業務と感染対策の 2 本立てで、中材の演題として医療安全に関して 2 題の講演をしていただきました。1 題目は「医療事故・ヒアリハット事例から学ぶ滅菌機器及び滅菌物取り扱いの注意点」について、株式会社ウドノの栗原先生から講演していただきました。この講義の冒頭に「人間は間違いを起こす動物です。失敗しない人はいません。失敗事例を振り返り同じ失敗をしないこと」で始まり、事例を通して講演していただきました。エラーを起こしやすいポイントを講義していただき、通常の業務の注意喚起をしていただいた講義でした。2 題目は、「安心・安全に機材をリリースしたい」をテーマに、滅菌技師の立場で講演していただきました。RND の特性と日常の管理と払い出しの視点から講演していただき、日々の実践者としての講義で業務の振り返りにつながる講義でした。

教育講演 1 では「2025 年 4 月アメリカ開催の AORN & HSPA 学会参加報告」を感染管理支援協会理事の土井先生から、講演をしていただきました。土井先生は定期的に海外の学会や病院見学の報告をしていただき、大変貴重な講演となっています。海外の学会の情報は他では聞くことができませんし、また海外での動向がわかる講演でした。

感染対策のテーマでは、教育講演 2 として、赤穂市民病院の和田先生から「疥癬」について講義していただきました。まれに定期的に老健施設や療養型施設などで、散発的に発生していることなど、お聞きされている方もおられるのではないかと思います。いつもは、感染対策にフォーカスとなることが多いと思いますが、実際にダニをあまり見ることがなく、スライドを通して興味深く拝見することができました。

最後に特別講演として、大阪大学医学部附属病院の高階先生から、「人のふり見てわがふり直そう～材料部サーベイから学ぶべきこと～」について講演していただきました。今回の講義は特に病院機能評価など第 3 者評価を受ける施設にとっては大変貴重な講義でした。高階先生は臨床現場での医療機器・滅菌の第一人者で、毎年、当研究会で講義していただいております。滅菌保障ガイドラインの編集など携わられており、私たちの中材業務の分野の先駆者として多くの後進に道を示し続ける存在であり、今後も研究会の講師として楽しみにしております。

今回も、たくさんの方に多様な講義をしていただき、次回の研究会へ期待する内容となりました。今後の研究会にも、たくさんの方が参加し活発な研究会になればと思っています。